

放送日 令和4年9月7日（水）
担当者 企画財務部長 川村 裕樹

おはようございます。企画財務部長の川村裕樹です。

7月から約4週間、東京立川市にある自治大学校に第3部課程第112期生として研修を受けてきました。

北海道から沖縄まで80名の研修生とともに総勢34人の講師による講義や政策課題を討議し、自分にとって必要な視点を学ぶことができました。

最先端の情報と視点を様々な講師から学び、特に管理職としての部内や課内のマネジメントについては大変参考となりました。

その中でも特に印象に残った「トップマネジメントとリーダーシップ」の講義の一部を紹介させていただきます。

まず、リーダーシップとはその職にあるものが自分のやりたいようにやってはいけない。大きな視点を持ったファシリテーターとなり、職位を超えた話し合い、そこからの発想、知恵、そして協働して実行するという意識を持った者こそ、リーダーシップを語って良いと聞き、自分に重ねて色々と考えさせられるところがありました。

さらには、リーダーシップは組織のマネジメント、いわゆる「管理」ではなく、組織の目標を達成するために他のメンバーに及ぼす影響力である、そして、人の成長・成功を助けることに全力を注ぐ者とも教わりました。

北広島市は今大きなプロジェクトを進めています。これは前例のない取り組みとして、進めるごとに様々な知見を必要とする事項が発生します。最初からできないではなく、やりながら変えていく意識、そして、「違い」という「価値」を見出して、世の中に選ばれるまちとして、私は自分の職責が持つリーダーシップを発揮していきたいと改めて感じました。

最後に、ある講師から、生命、安全の確保無くして実行力のある災害対応は無理である。有事の際の確保順位は、まずは自分と家族、次に地域と仲間、最後に組織、仕事と話され、こちらも非常に考えさせられた内容でした。

長期間勉強する環境を与えていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

放送日 令和4年9月14日（水）

担当者 総務部長 千葉 直樹

おはようございます。総務部長の千葉直樹です。

さて、本年度、総務部は新設された債権管理課に加え、防災危機管理室が加わり、私と次長、7課7課長、3人の参事以下総勢66人の体制で業務を進めています。

基本構想に掲げる目指す都市像の実現に向け効率的な事務執行体制となるよう努め、ボールパーク構想の着実な推進に今後も職員一体となって取り組んでいきたいと思っております。

私たちは日頃、様々な場面で学ぶ機会がありますが、一番勉強になるのは、「人に教える」ということだと思っております。人に教えるときには責任が伴いますので、しっかりと勉強したり確認したりします。

市民の方に何かを伝えることは、教えることと同じスキルが必要だと思っております。私たち職員も、「教える」ということを意識してみてはいかがでしょうか。

その教えるスキルの一つとして、コミュニケーションコストという言葉を知りました。簡単に言うと意思疎通をするときにかかる時間のことだそうです。

話す人が主語なしで話を続けても、聞く側は何の話か理解するまで時間が掛かります。話し相手と長く話していたい場合は別ですが、時間がムダになります。

時間が掛る理由は、話をする側と話をされる側の頭の中の映像が違うとのこと。

人に何かを伝える時、よりその意識が重要になり、丁寧な対応を忘れず、話をする相手と自分の頭の中で同じイメージ映像を見れるようにして、コミュニケーションコストが高くないように気を付けたいです。

放送日 令和4年9月21日（水）
担当者 市民環境部長 高橋 直樹

おはようございます。市民環境部長の高橋直樹です。

本日のスピーチは、令和6年4月から広域での焼却処理を開始する「ごみ処理」について、分別区分や収集曜日等が、大きく変わりますので、PRもかねて、お話をさせていただきます。

北広島市では、これまで、各家庭から出されたごみは、資源化するごみを除き、埋立処理をしています。埋立処理は、比較的安価な費用で済みますが、安定して処理を行うためには、埋立場所の確保が課題となるため、多くの自治体では、ごみを焼却処理し、埋め立てるごみの量を減らし、埋立期間の延命化を図っています。

北広島市での焼却処理は、平成9年に北海道が策定した広域化計画に基づき、近隣の市や町と協議会を設立し、協議を重ね、長い年月を要しましたが、令和6年4月から広域で焼却処理を開始することとなりました。

焼却処理の開始に伴い、大きく変わるのが、ごみの分別区分です。これまでの埋立処理を前提とした「普通ごみ」と「破碎しないごみ」が、今後は、焼却処理を前提とした「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」に変わります。

また、分別区分の変更に合わせて、ごみを収集する曜日と収集品目も変わります。これまでは、市内を3地区に分け、週2日の収集を行っていますが、今後は、2地区に分け、週5日の収集に変わります。また現在は、週2回の収集曜日にそれぞれ多数の収集品目としていたものが、今後は、各曜日に二種類程度の収集品目となります。

週5日の収集と聞くと、毎日ごみを出さなければならないと感じる方も多いと思いますが、毎週決められた曜日に少量でも出さなければならないものではなく、各家庭でゴミ袋の容量まで溜めることで、2週や月に一回といったように毎週出さず済むことができます。

今日は、ごみ処理の変更点について、その一部をご紹介させていただきました。ごみの処理については、市民の皆さんのご協力が不可欠です。今後、説明会や新たな分別冊子の配布などを行う予定としておりますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

放送日 令和4年9月28日（水）
担当者 建設部長 新田 邦広

おはようございます。建設部長の新田邦広です。

今日は、積雪寒冷地に住む私たちにとって、冬の暮らしに、欠かすことのできない除雪などについてお話をさせていただきます。

本市の車道除雪延長は約388キロメートルあり、北広島市から道南の松前町までの距離に匹敵します。市内全域における降雪により、全線出動となりますと、歩道除雪も含め、62台の除雪機械が夜中に一齐に動き出し、通勤・通学前の朝7時の作業終了を目標に、6時間程度かけて作業を行います。

除雪の出動基準は、ほぼ連続した降雪で、積雪深が10センチメートル以上となるなど、通行に支障となる場合に出動しますが、朝方に多く降った場合などは、安全性の確保などから出動を見送ることがあります。

さて、ここまで通常の新雪除雪についてお話ししましたが、皆様の記憶にも強く残っていると思います、昨シーズン的大雪について触れさせていただきます。

今年の1月中旬から2月の下旬にかけて、4回の警報を伴う3度の大雪があり、約40日の短期間に、3mを超える降雪により、記録的な積雪深となりました。

シーズンを通しての累計降雪量は、平年と比べ2割ほど多い状況でありましたが、その量が著しく多いわけではなく、その降り方が集中的であったことが多くの雪害をもたらしたものとと言えます。

この大雪を教訓に、関係部局の9課で構成する「雪害検証・検討会議」において、雪害の検証、課題となった事項の整理、関係機関との連携強化や情報共有・発信の在り方などについて検討を行い、気象状況や除排雪作業の進捗などに応じた三段階の体制を設定し、対策について取りまとめたところであります。今後、ホームページ等で公表しますので、ご覧頂きたいと思います。

最後に、全国各地で台風や大雨による災害が、頻発化、激甚化していますが、冬場の気象にも異変を感じている人は多いと思います。

天候に抗うことはできませんが、その影響を最小限にとどめなくてはなりません。そのためには、横断的な連携、一体となった取組みが不可欠と考えておりますので、関係する皆様のご協力をよろしくお願い致します。